

郷土室だより

第170号

令和3年8月31日

編集・発行

中央区立 京橋図書館

東京都中央区築地1-1-1

電話 3543-9025

刊行物登録番号 3-053

『郷土室だより』は昭和48(1973)年に第1号が発行され、今号で第170号になります。その第1号の冒頭に「最終的には中央区に関するものならなんでもわかるというほどに郷土―中央区に関する資料を集し、皆様の利用に供することを目的としています」と書かれています。そして、「郷土資料室と利用者各位との連契(原文ママ)を密にするため、郷土室だより」を密にするため、わかりません。しかし残念ながら、今年度いっぱい『郷土室だより』は50年近い歴史に幕を下ろすこととなりました。

当時の担当者が目指した最終形を目標に、私たち地域資料室職員は日々業務に携わっています。「川がないのに、なぜ橋の名前が交差点に付いているのか?」「時代劇に出てくる町名はどこ?」など、地域資料室には毎日多種多様な質問が寄せられます。ふと考えてみると、「中央区から消えたモノ」についての問い合わせが多いことに気づきました。

今年度は趣向を変えて、京橋図書館の地域資料室を身近に感じていただくテーマで『郷土室だより』をお届けします。読者の方の驚きや発見、

学びの契機になった際には、京橋図書館の地域資料室にもお立ち寄りください。さらに新しい発見があるかもしれません。

中央区からなぜ消えたのか?いつなくなったのか?たくさんある中から、今回は町名について掘り下げます。

『中央区から消えたモノ』(1)

◇京橋図書館は京橋にない?

京橋図書館の所在地は築地一丁目です。「今、京橋駅で降りたが、図書館までどう行くのか?」というお問い合わせを電話で受けることがあります。京橋図書館という名称ゆえに、銀座線の京橋駅から近いと疑われない例が意外と多いのです。しかし、最寄り駅は有楽町線の新富町駅で、京橋駅から図書館までは少し離れているのです。なぜ「京橋」図書館なのでしょう。それには、中央区と京橋図書館の歴史が深く関わっています。

明治43(1910)年8月10日に設立認可され、翌年2月1日に東京市立京橋簡易図書館として京橋尋常

小学校内に開館したことが、京橋図書館の始まりです。同42年には、日本橋図書館が、城東尋常小学校内に東京市立日本橋簡易図書館として開館しています。所在地は、京橋図書館が東京市京橋区金六町21番地(現・銀座一丁目25番)、日本橋図書館が同市日本橋区箔屋町11番地(現・日本橋三丁目6番)です。ちなみに、大正元(1912)年に開館した月島図書館は同市京橋区月島通三丁目7番地(現・月島四丁目1番)にあり、当時の館名は東京市立京橋第二簡易図書館です(京橋簡易図書館は明治45年に京橋第一簡易図書館に改称)。もうお気づきでしょうか。京橋区にある図書館で京橋図書館、日本橋区にある図書館で日本橋図書館だったのです。このように、東京市立の簡易図書館は市内の尋常小学校内に設置され、芝区には芝簡易図書館、本所区には本所簡易図書館など、当時の区名が付されたのです。しかし、図書館としては存続していても、これらの区名は現存しません。

◇中央区誕生

中央区誕生までの東京の歴史を遡

って見てみます。明治4（1871）年、廢藩置県により、府県ごとに大区と小区が定められました。東京府は、6大区97小区でスタートし、同6（7）年にかけて見直しが行われ、11大区103小区になりました。現在の区画表示と異なり、全ての区が数字で表示され、現在の中央区域は第一大区に所属していました。

は東京都となりました。そして、敗戦後にGHQからの指導を受け、昭和22（1947）年3月15日、22区制が発足したのです。練馬区が板橋区から分離独立するのは、同年8月1日のことで、現在の東京23区の姿になります。

中央区は、日本橋区と京橋区が合併して、ここに誕生しました。と同時に、日本橋区と京橋区という区名もなくなりました。ただ、中央区に決定するまでは紆余曲折があったようで、昭和22（1947）年1月4日の朝日新聞の記事に、日本橋・京橋の両区の頭文字を採って日京区、また「お江戸日本橋」の歌詞から江戸区、大江戸区の説もあると書かれています。そして、江戸区だと江戸川区と間違われるとの逡巡も見えます。

そして、明治11（1878）年、郡区町村編制法が施行されます。従来の大区小区制度が廃止され、15区が新たな区名で誕生しました。新区名は江戸城の城門名と幹線道路沿いの地名から名づけられ、現在の中央区は日本橋区と京橋区。日本橋区は江戸下町の中心、五街道起点の橋である「日本橋」から、京橋区は日本橋に続く実質的な東海道の起点の橋である「京橋」から命名されたのです。明治22（1889）年には、その15区を市域とする東京市特別市制が施行され、東京市が誕生しました。

昭和7（1932）年、隣接する5郡を合併した20区を新設して35区制になり、昭和18（1943）年に東京都制が施行され、東京市

は東京都となりました。そして、敗戦後にGHQからの指導を受け、昭和22（1947）年3月15日、22区制が発足したのです。練馬区が板橋区から分離独立するのは、同年8月1日のことで、現在の東京23区の姿になります。

◇橋がないのに京橋

中央区は、日本橋区と京橋区が合併して、ここに誕生しました。と同時に、日本橋区と京橋区という区名もなくなりました。ただ、中央区に決定するまでは紆余曲折があったようで、昭和22（1947）年1月4日の朝日新聞の記事に、日本橋・京橋の両区の頭文字を採って日京区、また「お江戸日本橋」の歌詞から江戸区、大江戸区の説もあると書かれています。そして、江戸区だと江戸川区と間違われるとの逡巡も見えます。

昭和4（1929）年には今の築地の地に移転してきた京橋図書館。当時の住所は東京市京橋区築地一丁目28番地ですが、位置は現在と変わっていません。今年11月1年目を迎える図書館の長い歴史の中で、京橋区がなくなっただけの、図書館の名前には残った「京橋」。それゆえ、「なぜ、京橋駅か

は東京都となりました。そして、敗戦後にGHQからの指導を受け、昭和22（1947）年3月15日、22区制が発足したのです。練馬区が板橋区から分離独立するのは、同年8月1日のことで、現在の東京23区の姿になります。

そもそも、日本橋区の区名の由来である日本橋は現在も日本橋川に架かっていますが、京橋区の区名の由来である京橋はありません。それは、京橋が架けられていた京橋川が昭和34（1959）年に埋め立てられたため、そこに架かっていた橋も撤去されたからです。昭和39年の東京オリンピックに向けて、東京が急ピッチで姿を変え始めた時期です。

京橋川は、徳川家康の江戸入り後の慶長8（1603）～1606）年の最初の天下普請で、現在の銀座一丁目と京橋三丁目間に開削されました。日本橋が創架されたのが慶長8年といわれていますが、京橋の創架もそれと同時に期だったと考えられています。京橋はその後、明治8（1875）年に石造アーチ橋になりました。その当時の親柱2基と、大正11（1922）年に設置された照明設備

の存在が現在も残されており（京橋三丁目5番地先、銀座一丁目2番・11番地先）、かつての川の名残をかすかに感じる事ができます。明治時代の親柱にデザインされている玉ねぎのような形は、江戸時代の橋に付けられていた擬宝珠を模したものです。擬宝珠は、江戸市中では日本橋、京橋、新橋のみに付けられた特別なものでした。

このように、中央区にはなくなった川や橋がたくさんあります。詳細は前回までの特集で書かれているので省略しますが、日本橋や新川、八丁堀などの町名、鍛冶橋や三原橋などの交差点名等、現在残っている川や橋の名前には歴史が残されているのです。

かつて東京は、人・物の輸送には主に船を利用しており、水の都として発展してきました。中央区も然りです。それらが戦災残土処理や昭和の東京オリンピック開催準備のために次々風景から消え、人々の記憶からも消えかけています。銀座が川に囲まれていたなどと、現在の姿からは想像できません。

◇銀座だけでなく金座もあった？

皆さんご存じの銀座。中央区と

いえば、銀座が思い浮かぶ方も多いと思います。しかし、銀座の町名について、深く考えることは少ないのではないのでしょうか。銀座って銀を造っていたの？という質問に対しての回答は、「その通りです」。「銀座発祥の地」碑が銀座二丁目7番の中央通り沿いにあります。銀座の町名は、まさしく銀貨を製造し、管理する「銀座」に由来しているのです。徳川家康は江戸の町づくりと同時に、法律や通貨などのしくみも整備しました。銀座は、慶長17（1612）年に駿府からこの地に移されました。その後、寛政12（1800）年に現在の日本橋人形町一丁目に移転し、当時の通称町名である蛸殻町にちなみ蛸殻銀座と呼ばれました。

さて、銀座があれば、金座もあったのかという疑問が生じると思います。そちらも中央区にありました。金座通りが浜町公園の北側にあるので、地元の方は知っていることかもしれません。明治2（1

869）年に造幣局が設立されるまで、日本橋に金座が存在していたのです。

そもそも、「座」というのは、幕府が特恵主義に基づいて縁故の個人などに特権を与え、ある物品に對して独占権を与えたものです。その代わりに各々の「座」には、一時的もしくは永久的に運上金または冥加金（営業税）を上納させていました。

金貨の製造所と役所である金座を設けたのは、慶長6（1601）年のことでした。金座は、現在の日本橋本石町二丁目1番にある日本銀行本店の場所にありました。そこでは、勘定奉行直轄の下、後藤庄三郎光次が金貨製造の命を受け、監督をしていました。町には両替商も多く、この金座があったことからもとは両替町という町名でした。しかし、京橋の南にも両替商が多く、銀座が移転してきたため、こちらは新両替町となり、日本橋の方は本両替町として区別しました。銀座は明治2年に正式な町名となっています。

町名の話が出ましたが、金座の近くにある一石橋は江戸っ子らし

い洒落で付けられたといわれています。金座を監督している後藤家と対岸にある呉服商の後藤家を五斗と読み替え、2つを足して十斗＝一石というわけです。ただ、これは誤りで、永楽銭という通用禁止銭を回収する際に永楽銭1貫文に對し、この橋で玄米1石と取り換えていたからだという説も伝わっています。この説には続きがあり、今は埋め立てられている道三堀（内濠と外濠を結ぶ水路で、日本橋川につながる）に架かっていた銭瓶橋の話も出てきます。回収した永楽銭を瓶に入れて西側の川岸に積んでいたために、そこにあった橋に銭瓶の名前が付いたとい

うのです。銭瓶橋にも、掘削した際に銭が入った瓶が出てきたという由来など諸々あり、真相は不明です。

ともあれ、町名や橋名にお金に関する話が絡んでいるのは、日本橋が江戸時代から経済の中心地であることを物語っています。現在の中央通りである通町筋と金座の北側を走る本町通りの江戸のメインストリートが交差しているこの付近は、江戸市中でも一番の繁華

エリアでした。八重洲一丁目11番先に残っている一石橋の「迷子しらせ石標」は、当時の迷子捜索に利用されていたもので、それだけ人出が多かったことがわかります。

参考文献

書名	著者	出版社	出版年
中央区史	東京都中央区役所／編	東京都中央区役所	1958
中央区三十年史	中央区／編	中央区	1980
中央区沿革図集 日本橋篇	中央区立京橋図書館／編	中央区立京橋図書館	1995
中央区沿革図集 京橋篇	中央区立京橋図書館／編	中央区立京橋図書館	1996
Jr. 中央区文化歴史ずかん	中央区立京橋図書館／編	中央区立京橋図書館	2013
千代田図書館八十年史	千代田区／編	千代田区	1968
中央区立京橋図書館百周年記念 増刷	中央区立京橋図書館／編	中央区立京橋図書館	2014
川の地図辞典 江戸・東京/23区編 3訂版	菅原健二／著	之潮	2012
中央区文化財マップ・中央区の埋蔵文化財包蔵地	中央区立郷土天文館／編	中央区立郷土天文館	2020
東京の橋一生きている江戸の歴史	石川悌二／[著]	新人物往来社	1977
朝日新聞縮刷版 昭和22年1月号～6月号復刻版		日本図書センター	1987



新立案内



安政コロリ流行記

仮名垣魯文／〔著〕 白澤社

仮名垣魯文の「安政箇癩流行記」の原文と現代語訳に、同書に記録されたコレラ流行下の流言と怪異、護符についての解説論文をあわせてまとめた一冊。未知の感染症に対する不安と恐怖に、江戸の市民はどのように向き合い、克服したのか。現代の新型コロナウイルスの流行と照らし合わせ、そこから抜け出すためのヒントを探る。



定本実録大江戸奇怪菓子（新装版）

花房孝典／著 天夢人

狐狸、不思議話、縁起由来の三つの話に焦点を当て、江戸時代の庶民生活の裏側を覗く伝承に迫る。曲亭馬琴の「兎園小説」や根岸鎮衛の「耳囊」など、江戸時代の随筆や風聞控えから選んだ、不思議で怪しい話の数々を収録。「方位・方角」「貨幣制度」など江戸時代の文化を楽しむための資料集も掲載。



地形と歴史で読み解く鉄道と街道の深い関係
内田宗治／編著 実業之日本社

明治の鉄道開業時から遡り、東京の鉄道路線が地形とどう関わりながら発達してきたかを、凸凹地図を参照しながら読み解く。東京の鉄道の歴史を、江戸時代の街道や近代の道路との関係をもとに記し、鉄道と街道が担ってきた社会的役割についても触れる。



調べものに

この1冊

中央区沿革図集

（京橋篇・日本橋篇・月島篇）
中央区立京橋図書館／編

中央区のことを調べる上で、もつとも基本的な資料のうちの一冊となるのが、この「中央区沿革図集」。江戸から現代までの中央区の変化を、地図を中心に適切な解説や文献資料などを添えて、特徴を明らかにした地図集です。江戸の商業活動の一大中心地として栄えた当時の姿や、関東大震災、東京大空襲によるまちとしての様々な変化など、大きく変遷してきた中央区の沿革を地図を基に視覚的に理解できるようになっています。

収録地図

- ・改訂「江戸之下町復元図」
 - ・大区小区時代の沿革図
 - ・大正12年関東大震災火災図
 - ・昭和7～11年の火保図
- など